

# 大川小の教訓 胸に刻む

311次世代塾 第5期 9、10回講座

## 学生ら視察 避難路体験も

いのちと  
地域を  
守る

東日本大震災の伝承と防災啓蒙の担い手育成を目的として河北新報社などが運営する遠征講座「3・11」伝えも／備えも「次世代塾」第5期は20日、第9、10回講座を行った。大学生30人が、児童ら64人が津波の犠牲になった石巻市の震災遺構「大川小」を視察。大川伝家の会長兼代表者で、6年の次女みすほさん（当時12歳）を亡くした佐藤敏郎さん（58）に話を聞いた。

参加者は最初に慰花台に花を手向け、犠牲者に黙とうを捧げた。佐藤さんが震災当時の学校行事や子どもたちの様子などを話していた。佐藤さんは「子どもたちが聞いたほか、ねじり倒された構造物下をはじめ津波で大破した校舎を見学した。佐藤さんは校舎などを這りながら、地震発生後、避難するか否かの判断に時間がかかり、避難開始が遅れたことも、震災前、児童がシイタケ栽培の学習をしていた嵐山に避難は、助かる可能性があったことを説明した。

最後に参加者は、児童たちが津波に襲われるまでの1分間、避難したルートを確認できた。

佐藤さんは「子どもたちがどんな顔をして走っていたのか想像してほしい。そしてその中に自分や自分の大切な人を入れて考えてほ



「3・11」伝えも／備えも「次世代塾」第5期9、10回の遠征講座。石巻市の大川小を視察し、震災当時の学校行事や子どもたちの様子などを話していた。

震災遺構の保存の在り方について学生たちに問い掛ける佐藤さん  
—石巻市